

米に関するマンスリーレポート

簡易版

令和元年 9 月号

巻頭

令和元年産水稻の 8 月 15 日現在における作柄概況

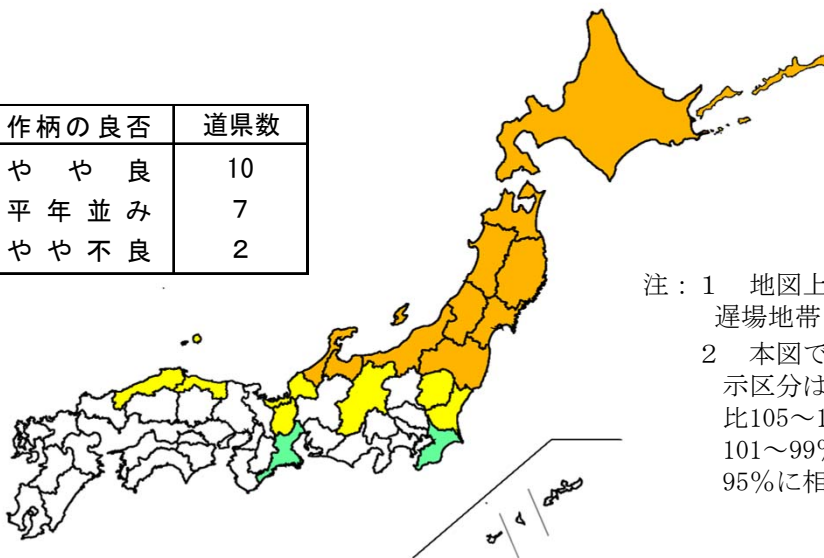


マンサ解説員
よねちゃん

- 東日本を中心とした早場地帯（19道県）の作柄は、北海道、東北及び北陸は「やや良」、その他の地域はおおむね「平年並み」と見込まれるよ。

図1 早場地帯の作柄の良否

区 分	作柄の良否	道県数
	や や 良	10
	平 年 並 み	7
	や や 不 良	2

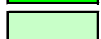


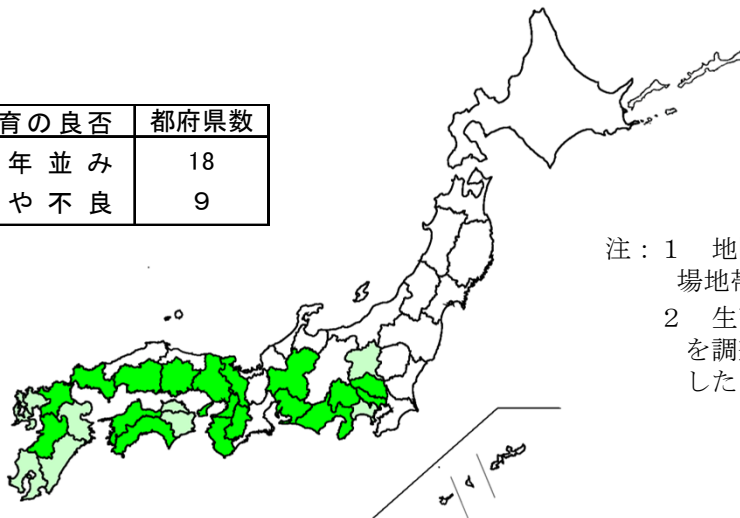
- 注：1 地図上の白抜きの都府県は、遅場地帯を表す。
- 2 本図で用いた作柄の良否の表示区分は、「やや良」が対平年比105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良」が98～95%に相当する。

- 西日本を中心とした遅場地帯（沖縄県（第二期稲）を除く27都府県）の生育は、「平年並み」又は「やや不良」で推移しているよ。



図2 遅場地帯の生育の良否

区 分	生育の良否	都府県数
	平 年 並 み	18
	や や 不 良	9



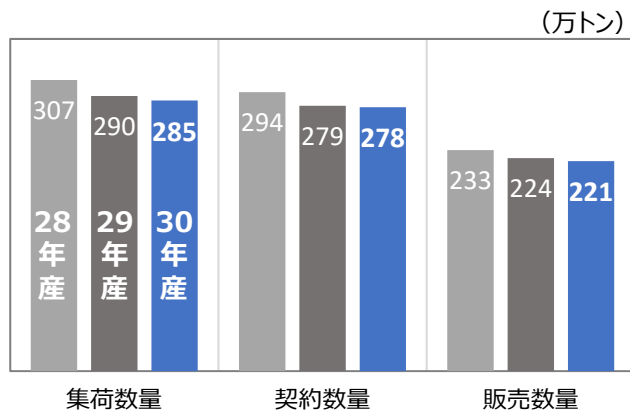
- 注：1 地図上の白抜きの道県は、早場地帯を表す。
- 2 生育の良否は稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。

注 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

定期的な掲載情報（ダイジェスト版）

1 【契約・販売状況 P.5～】

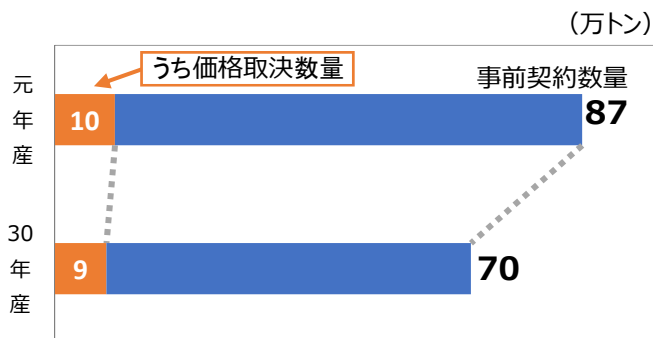
- 平成30年産の契約・販売状況は、対前年同月で集荷▲4.6万ト、契約▲1.4万ト、販売▲3.3万ト



注 いずれの年産も生産年の翌年7月末時点の数量（30年産は速報値）。

2 【事前契約数量 巻頭】

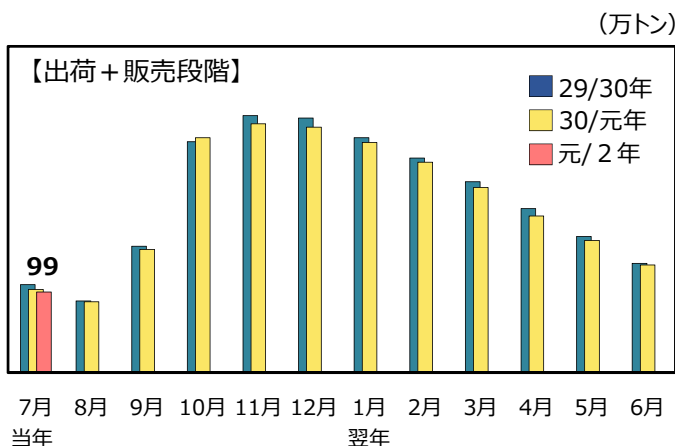
- 令和元年産の事前契約数量は、対前年同月差+17万トの87万ト



注 いずれの年産も生産年の7月末時点の数量（元年産は速報値）。

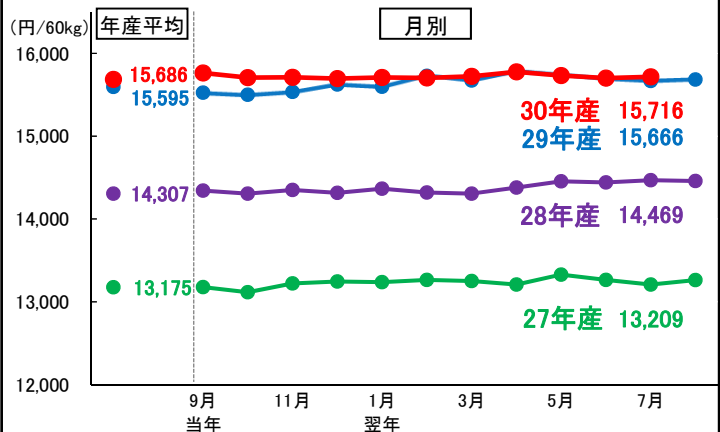
3 【民間在庫の推移 P.11～】

- 元年7月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月差▲3万トンの99万ト



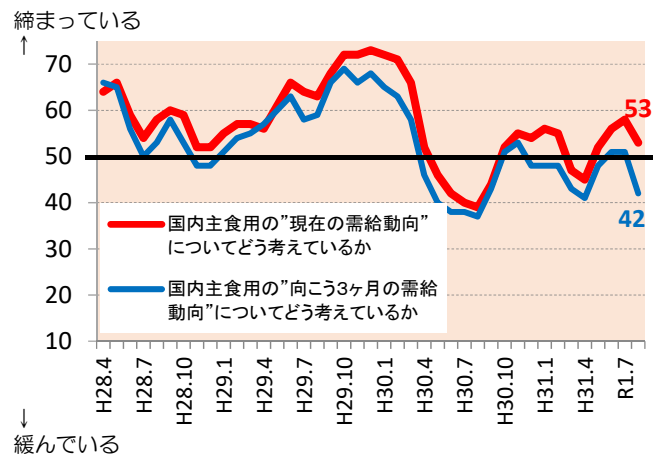
4 【相対取引価格 P.22～】

- 元年7月の相対取引価格は、全銘柄平均15,716円、出回りからの年産平均価格は、前年産+91円の15,686円



5 【DI調査 P.30～】

- 令和元年8月分の主食用米の需給動向は、
現状判断D I 53（前月からの増減 - 5）
見通し判断D I 42（前月からの増減 - 9）



6 【小売価格の推移（POSデータ） P.57】

- 元年7月の小売価格（平均価格）は、対前月差+1円、対前年同月差▲34円の2,007円

